

—千里ライフサイエンス新適塾—  
「脳はおもしろい」第6回会合

**精神疾患とその偏見への挑戦：  
こころの扉を開き克服するまで**

**講師：** 橋本 亮太 (はしもと りょうた)

大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井  
大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究  
センター・准教授

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室・准教授

**日時：** 2014年 9月16日(火) 17:30~20:00

**場所：** 千里ライフサイエンスセンタービル

講演会 6階 千里ルームA (17:30~19:00)

懇親会 6階 千里ルームB (19:00~20:00)

**講演・懇親会ともに参加費無料**

**コーディネーター**

**山本 亘彦** 大阪大学大学院生命機能研究科・教授

**古川 貴久** 大阪大学蛋白質研究所・教授

**主催：** 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1丁目4番2号  
千里ライフサイエンスセンタービル20階

E-mail:tkd@senri-life.or.jp、Tel:06-6873-2001

財団ウェブサイト <http://www.senri-life.or.jp>

## 講演要旨：

ストレスの多い現代社会で、こころの調子を崩す人が増えています。「こころの病気である精神疾患は、どのように診断されるのでしょうか?」、「精神疾患の原因は何なのでしょうか?」、そもそも「こころの調子を崩した人たちは、病気なのでしょうか?」などの疑問を持っている人はたくさんいると思います。本講演では、代表的な精神疾患である統合失調症、産業界のメンタルヘルスの最も大きな課題であるうつ病、子どもから大人まで急激に患者が増えたといわれる発達障害、精神科以外の診療科で治療を受けている慢性疼痛患者等について、精神医学的に実際の症例を通じて具体的に解説します。さらに、臨床医学から基礎医学を繋ぐ中間表現型を用いた最先端のトランスレーショナル研究を紹介し、病態解明・治療法の開発への挑戦についてのお話をします。

臨床医学研究においては、精神疾患患者からデータやサンプルを得て研究を進める必要があります。我々は統合失調症専門外来を中心に据えて、日本随一の精神疾患のリサーチリソース・データベース「ヒト脳表現型コンソーシアム」

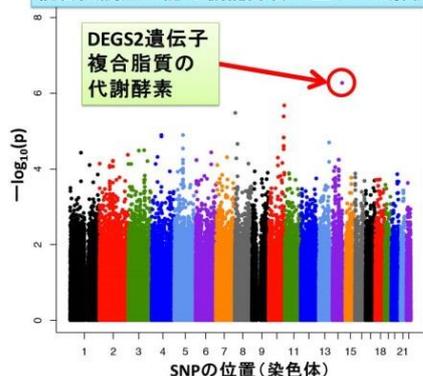


を構築して、これを用いた研究を全国的に展開し、42 研究機関の 75 研究室と共同研究を行っています。約 100 人に 1 人が発症する統合失調症は、思春期青年期の発症が多く、幻覚・妄想などの陽性症状、意欲低下・感情鈍麻などの陰性症状、認知機能障害等が認められ、多くは慢性・再発性の経過をたどり、社会的機能の低下を生じます。統合失調症

の認知機能障害を改善する薬剤は未だなく、現在、新たな薬剤の開発が期待されている分野です。我々は統合失調症の認知機能障害を定量する方法を開発し、「ヒト脳表現型コン

ヒト脳表現型コンソーシアム				
日本最大のヒト脳表現型の包括的なリサーチリソースデータベース				
リサーチリソース	認知機能検査	脳神経画像検査	神経生理学的検査	人格傾向検査
ゲノムDNA 血漿 血中RNA 不死化リンパ芽球	知能 作業記憶 言語性記憶 視覚性記憶 遂行機能 語流暢性 注意・集中力 精神運動速度 表情認知	三次元脳構造画像 拡散テンソル画像(DTI) 安静時機能的MRI(rs-fMRI)	眼球運動 プレバリス抑制テスト(PPi) 近赤外光トポグラフィー(NIRS)	TCI 失調型パーソナリティ障害評価尺度(SPQ) 自閉症スペクトラム指数(AQ)
健常者1000例・統合失調症800例・気分障害150例・発達障害150例 サンプル収集200例/年・共同研究国内外67か所				

統合失調症の認知機能障害の全ゲノム解析



ソーシアム」のサンプルを用いて認知機能障害の全ゲノム関連解析を行って、DEGS2 という遺伝子を発見しました。この遺伝子は創薬ターゲットになり得るものであり、基礎医学研究を行って認知機能障害改善薬が開発されれば、日本の長期入院患者の約 70%を占める多数の入院患者が退院し、働くことが困難な患者が家庭での役割を果し、労働に従事することができるようになることが期待されます。

精神疾患とその偏見への挑戦は、未だ道半ばではありますが、適塾を開いた緒方洪庵の「人の為に生活して己のために生活せざるを医業の本体とす」という信念と使命感を持って挑戦することにより、必ず成し遂げられるものと考えています。

## 講師紹介：

### 学歴・職歴

- 平成 7年3月 大阪大学医学部卒業
- 平成 7年4月 大阪大学医学部附属病院神経科精神科にて研修
- 平成 8年4月 大阪大学大学院医学系研究科内科系精神医学専攻(医学博士)
- 平成 12年6月 米国国立精神衛生研究所留学 (客員研究員)  
Molecular Neurobiology Section, National Institute of Mental Health, National Institutes of Health
- 平成 14年4月 米国国立精神衛生研究所内にて研究室異動  
Clinical Brain Disorders Branch, NIMH, NIH
- 平成 15年4月 国立精神・神経センター 神経研究所 疾病研究第三部 第一研究室長  
国立精神・神経センター 武蔵病院 併任医師
- 平成 18年4月 大阪大学大学院医学系研究科子どものこころの分子統御機構研究センター 特任助手/精神医学教室(兼務)
- 至現在 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター 准教授 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室(兼任)

### 受賞歴

- 平成 14年度 米国国立衛生研究所・優秀研究賞
- 平成 15年度 日本精神神経学会・精神医学奨励賞
- 平成 17年度 日本生物学的精神医学会・日本神経精神薬理学会合同年会、  
BP/NP 2005 Osaka Outstanding Paper Award
- 平成 20年度 日本神経化学会最優秀奨励賞
- 平成 21年度 第31回日本生物学的精神医学会優秀演題賞
- 平成 21年度 第6回統合失調症研究会研究助成優秀賞
- 平成 21年度 日本統合失調症学会学術賞優秀賞
- 平成 22年度 第6回日本統合失調症学会学術賞一般演題賞優秀賞
- 平成 23年度 日本生物学的精神医学会学術賞

## 所属学会

日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本神経科学学会、日本神経化学会、  
日本統合失調症学会、日本うつ病学会、日本児童青年精神医学会、日本神経精神薬理学  
会、日本臨床精神神経薬理学会、日本線維筋痛症学会、日本人類遺伝学会、  
The World Federation of Societies of Biological Psychiatry、Asian Pacific Society  
for Neurochemistry、Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum